

研修旅行

山形美術館細川家の名宝と慈恩寺の重要文化財を訪ねる旅

2014年8月23日(土)



福島県立美術館から早川館長様・伊藤学芸課長様・白木学芸員様のご同行をいただき、42名で出かけました。

「山形美術館」では、山形美術館館長様から細川家歴代当主の収集についての解説をいただいた後、細川家に伝わる名品の数々を鑑賞しました。

昼食は霞城セントラルの24階「旬菜四季ひろぜん」で、山形市街と山々の眺望を楽しみながら特製松花堂をいただきました。

午後は寒河江市の天平18年(746年)に開かれたという「慈恩寺」へ。国宝・重要文化財の建物・仏像の数々を間近に鑑賞し、頭に干支の彫刻のある十二神将像に家族の干支を探しお参りしたり、鐘樓の鐘をついたりしました。帰路、休憩を兼ねて山形市内のラスク工場を見学しました。

今年も、バスの中では館長様・課長様・学芸員様のお話も伺い、皆様のご協力のおかげで、友の会らしい、目も心もお腹も満たされた、楽しい研修旅行ができました。(友の会研修旅行担当 辺見美江子)

アート・チャリティ・バザー

華やかな造花に人気クリスマスインテリアに好適と!!

2014年11月16日(日)



折からの「小川千穂(ちかめ)」展の最終日と重なり、開館早々から来館者が殺到。美術図録、茶、絵ハガキ、ブランド小物など早々に求められました。骨董コーナーでは、江戸・明治初期の豆皿(手塩皿)や一輪挿しに見立てられた徳利、刺身皿、蕎麦猪口(ソバチョコ)、さらに詰め放題の「古布」(古切れ)も喜ばれました。バザーに積極的に協力賜りました館長様、学芸員の方々、友の会の皆様に深く感謝する次第です。

(友の会バザー担当 齋藤格)

美術映画鑑賞会

美術映画を見る会

2015年1月12日(土)



昨年は、「坑道の記憶 炭鉱絵師・山本作兵衛」を紹介させていただきました。山本作兵衛(1892～1984)は、50年にわたり筑豊炭田に従事した生粋の探鉱夫でした。引退後は好きな絵筆を取り、記憶を元にこつこつと炭鉱生活の機微を描き続けました。65歳で描き始め遺した絵は1000点以上といわれており、その画業は日本で初めてユネスコ「世界の記憶」遺産に登録されました。映画は、山本の生前の映像と親族・関係者へのインタビューを通じて、在りし日の画家のとなりを生き生きと伝える感動作でした。

また、アート映画ではないのですが「大いなる沈黙へ グランド・シャトルーズ修道院」も紹介させていただきました。ワンシーンワンシーン全画面がそのままフェルメールの絵画だと形容してしまいたくなる美しい映画。そして、神様ってほんとうにいるかも、と不思議な気持ちに捉われもする映画です。厳格な戒律ゆえ12世紀以来、部外者の立入が一切許されなかったアルプスに位置するカトリック修道院での修道士たちの日常がたまらず映し出されていました。

今回は「みんなのアムステルダム国立美術館へ」(4/11～17)、「ヴァチカン美術館 天国への入口」(4/18～24)、「ヴァチカン美術館」上映初日の4月18日(土)午前10時から上映後に、坂本篤史学芸員(イタリア美術)に解説をお願いしています。ぜひ、ご参加ください。

(友の会美術映画鑑賞会担当 フォーラム福島支配人 阿部泰宏)

美術実技講座

第1回 藍染め体験 講師：川俣町織物展示館指導員

2014年8月9日(土)

新しい試みとして、場所を川俣町織物展示館に移し、藍染めの体験を企画しましたが、時期が良くなかったのか、参加者が少なく残念でした。

藍の葉の刈り取りから染織まで体験してみると、新鮮で、ストールを自分の手で染めることの楽しさを充分満喫しました。

第2回 スクラッチボードに描く

講師：久慈伸一学芸員

2014年11月29日(土)



初めての体験の方から、何回か参加したことのある方まで8名で参加しました。スクラッチボードの黒い面からどのような光を表現できるのか?白と黒が逆転しているだけで、普段描く時と違う感覚を味わうことができます。それぞれ独自のイメージを展開し、充実した時を過ごすことができました。

(友の会美術実技講座担当 佐藤みどり)

美術鑑賞講座

今年度の展覧会ではこんなことを

美術館が展覧会を立ち上げる時、担当の学芸員さんは2・3年前からあるときは



6・7年も前から準備を始めているとお聞きしたことがある。日常からはなれた空間、展覧会会場で私達は作品を観て、学んで、語って、楽しむ。友の会美術鑑賞講座は字面からして堅苦しく思われるが個人では得られない作者の想いや作品の物語を共有できるひとときである。

今年度の展覧会「コレクション・クッキング」では今までになく高校生に照準を合わせ最終的に彼らを選んだ作品を常設展に展示した。そのときの講座のなかでは若い感覚がどんな作品を選ぶかなど話しが及んだ。

「小川千穂展」では初めて小川千穂を福島県立美術館が取り上げたこと。福島喜多方の文化人達との縁がりと好奇心をくすぐる話は楽しいものだった。

今開催されている「円空展」の講座では、円空がどんな想いで木を彫り、素朴な仏像に何を托したのかをスライドを使用して学芸員さんと共に円空の足跡をたどるお話が聞けたことで展覧会を何回も見たい思いになった。

(友の会美術鑑賞講座担当 加藤信子)

ミュージアム・コンサート

琵琶と手妻公演会

2015年2月28日(土)



今年のミュージアムコンサートは今年度最後の美術館企画展の円空展に合わせて、和の芸能の「薩摩琵琶と江戸手妻の会」を開催しました。

江戸時代からの日本に伝わる手品の江戸手妻伝承者の藤山新太郎さんとお弟子さんの藤山晃太郎さん、薩摩琵琶演奏者の塩高和之さんとの御三人の公演でした。薩摩琵琶の独演に続き、手妻の御二人による箱芸や輪芸、紐芸が解説をまじえての演技があり、最後の演目の「蝶のたわむれ」は塩高さんの琵琶の演奏に合わせて藤山新太郎さんの扇子で紙の蝶が会場内の皆の頭上を舞う華々しい手妻の演技を見せて頂き楽しい会でした。

友の会員席と一般席合わせて250名の参加者がありました。

(友の会ミュージアム・コンサート担当 関根裕子)